

研究部長あいさつ「AI時代に対応したキャリア教育の推進を目指して」

多古町教育研究協議会キャリア教育研究部 部長 名上 健一

この10年間の情報化社会の急激な変化は、それまでの変化の50年分を超越していると言われている。そのくらい、今の情報化社会の変化は激しい。そのような時代に、学校の教師や子供たち、さらに保護者はどのように対応していけばいいのだろうか。年功序列、学歴社会という言葉はすでに死語化している。この急激な変化を後押しているのは、社会全体のICT化やDX化であり、さらに言えば、最近のAI（人工知能 以下AI）の汎用化である。特に、AIに関しては、10～20年後には50%前後の雇用がAIに奪われる可能性があるという予測が、様々な研究報告書により出されている。経済産業省は、2016年4月に、AIやロボットなどの技術革新により、何も対応しなければ2030年には国内雇用が735万人減るという計算を発表した。他人ごとではない。2030年代と言えは今の義務教育の子供たちの就職活動に直接関わってくる。つまり、キャリア教育の進むべき方向はAIの活用なくしては考えられないということもできる。

文部科学省の次期学習指導要領の方向性としては、「AIの変化を受け止め、将来の予測が難しい社会の中であっても、伝統や文化に立脚した視野を持ち、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を確実に育む教育の実現」としている。このことから、今までの伝統や文化を大切にしながら最先端のAI技術を融合させていくという時代の流れに対応した教育が求められる。つまり、キャリア教育の目的である職業観や勤労観を低年齢時から感覚として身に付け、さらに年齢を重ねるにつれて深め広げていくことができるキャリア教育を今後も進めていくことが重要になってくる。そのために私たちがやるべきは、GIGAスクール構想による1人1台の端末を「利用から積極的活用」へ転換していく教育の推進である。AI時代を恐れるのではなく、それを自分の味方にして活用できるキャリアを身に付けていくことである。そして、その基礎作りのためにも学校や家庭、地域が連携協力し、一体となった実践的キャリア教育を深め広めていきたいと考える。

キャリア教育 各学校の実践

6年「ゆめにむかって」

〈多古町立久賀小学校〉

今年度も町内の事業所に御協力をいただき、職場体験学習を行うことができました。実際の作業を通して、子供たちなりのそれぞれの職業の「働くやりがい」が見えてきました。



【書店での本の陳列作業】

- こども園の先生は、子供たちとたくさん遊んでいて、子供たちみんなに平等に接していてすごいなと思いました。こども園に行ってみて、ぼくは、子供との接し方が分かってとても勉強になったし、昔を思い出して懐かしいなと思いました。先生方は子供が好きで、子供たちの成長のために働いているのだなということが分かりました。
- セブンイレブンの店員さんは、いつも明るく接客していました。はじめ、私は声を出すのを難しく感じていましたが、途中からだんだんと声が出せるようになっていきました。レジでお客さんが自分で会計をする時、お客さんが困らないように見ておくことも大変だなと思いました。人が働く理由は、自分のためにでもあるけれど、お客さんに喜んでほしいから働いているのではないかと思います。

- ぼくは、平山書舗で職場体験をしました。本を並べる仕事をしましたが、ただ並べるだけではなく品物を見やすくしたり、袋に入れて圧縮したりと物を並べる仕事にもいろいろあることが分かりました。仕事をしている最中に入ってきたお客さんへの挨拶があまりできず、難しいなと思いました。本屋さんの仕事は自分が思っていた以上にたくさんのことがあり、大変なのだと体験して感じました。働くやりがいは、自分たちの利益だけでなく、みんなが喜んでくれることだと思いました。

6年「多古中央病院 出前授業」

〈多古町立多古第一小学校〉



【多古中央病院の方の話を聞く児童】

多古中央病院に勤めている医師、看護師、臨床検査技師、放射線技師、薬剤師、理学療法士の方に来ていただき、それぞれの仕事内容や動機、やりがい、必要な資格などをロールプレイングと映像で分かりやすく教えてくださいました。さらに、それぞれの立場で質問に答えくださり、知らなかった職種について詳しく知ることができました。

- 薬剤師に興味をもっていましたが、今日の話を聞いて理学療法士も良いなと思いました。
- 医師になるために、勉強をがんばります。

6年「大先輩に教わろう」

さまざまな職種の方が、これまでの経験を生かして、よりよく働くための工夫や働くことの意味や大切さをそれぞれの視点から教えてくださいました。将来の自分を考える貴重な体験となりました。

御協力いただいた会社（順不同）

高山建材、喜多住宅設備、佐藤農園、
多古こども園、ビリオンレイク、
アドバンネット、フリーアナウンサー、
ペパームーン

【メモを取りながら話を聞く児童】

6 年「夢・仕事ぴったり体験」



【商品を並べている児童】

児童一人一人が社会人・職業人として自立していくために必要な勤労観・職業観などを育てることを目的とし、各事業所にて職場体験をさせていただきました。

- ヤックスでは、店員さんが挨拶の仕方や商品の並べ方を優しく教えてくれたので楽しく体験できました。
- こども園では、子供たちへの声の掛け方やふれ合い方にたくさんの工夫があることを学びました。
- 図書館では図書カードの作成や本の貸し出し・返却の対応の仕方を学び、実践しました。貴重な体験ができて、嬉しかったです。

〈多古町立中村小学校〉

5・6 年「航空講話（空育）」

成田空港と全日空の方々による、航空講話を行いました。

たくさんある空港の仕事の中で、今回は貨物を中心にお話していただきました。多古町のすぐ近くに位置する成田空港の仕事に関心をもつよい機会となりました。

- 荷物を運ぶ貨物専用機があり、どうも運べることを知って驚きました。安全に運ぶために、いろいろな工夫をしながら大切に扱っているのだなと感じました。
- 空港の仕事には、お客さんと関わる仕事だけではなく、見えないところでもたくさんの方が働いていることが分かりました。私も空港で働いてみたいと思いました。



【航空講話の話を聞く児童たち】

1 年「道セミナー」



【道セミナーの様子】

地域の教育力を活用し、文化的教養の向上と、中学生と地域住民との交流の深化を図ることを目的として道セミナーを行っています。今年度も、成田空港を発着する航空会社の方を講師としてお迎えし、講話をいただきました。

- 私は、成田空港では、様々な最新技術によって、安心・安全な運航が行われていること、成田空港が機能強化により空港内だけでなく地域にも期待される効果が生まれていること、空港はたくさんの人と仕事に支えられていることについて知ることができました。

1 年「人セミナーⅠ」

多古町で働いている方々をゲストとしてお招きし、中学生の将来の夢に対する講話をいただく人セミナーを行っています。今年度は6名の多古町民生委員の方々から、働くことの意義や人生観を学ぶことができました。

- 生徒が一人一人の夢や希望を確認し、夢に向かって努力していく姿勢について発表しました。お互いに質問や意見交換をすることで、さらに職業や働くことへの理解が深められました。



【人セミナーⅠの様子】

2 年「職場体験学習」

2年生では、10月31日、11月1・2日の3日間で職場体験学習を実施しました。

コロナも5類となり、今年度は昨年度よりも多くの事業所の方々のご協力をいただくことができました。生徒たちは「職業」や「将来」について考える良いきっかけになったと感じます。

- 私はシューリペア「カナムラ」で職場体験をさせていただきました。主にレザーやスニーカーなどを作りました。私はスニーカーが好きなので、靴作りに必要な素材や靴ができるまでの工程など、とても多くのことを学ばせていただきました。
- 私はJA多古支店二本松野菜集出荷場さんで職場体験をさせていただきました。普段の生活ではすることのできない体験を通して、「食」の大切さが改めて分かりました。これからも好き嫌いなどはせず、もっと「食」に感謝をして野菜やお米を食べていきたいと思います。



【2年 職場体験の様子】

多古町キャリア教育事業

〈英語交流：各小学校〉



【高校生とゲームをする児童】

〈久賀小学校〉

- 多古高校の高校生が来校し、外国語の授業をしました。一緒にゲームをしたり、発音を教えてもらったりして、とても貴重な体験となりました。

〈花交流：各校で年毎にローテーション〉



【移し方を教わる児童】

〈多古第一小学校〉

- 5年生が多古高校の高校生に教わりながら、花の苗を植えたり、育苗ポットに移し替えたりと、数回にわたり交流しました。高校の施設を見学できたことも、貴重な経験でした。